



工業会

The Japanese Association For Non-Destructive Testing Industry (JANDT)

発行元 一般社団法人日本非破壊検査工業会
〒101-0047
東京都千代田区内神田2丁目8番1号 富高ビル3F
電話 03-5207-5960 FAX 03-5207-5961
URL : <https://www.jandt.or.jp/>
編集 : 広報部会

令和6年 非破壊検査業界 新春賀詞交歓会を開催

令和6年1月10日(水)、東京都千代田区の如水会館にて「非破壊検査業界 新春賀詞交歓会」を開催し、来賓及び業界関係者など200名を超える方々にご出席をいただいた。

開会に先立ち、駆けつけていただいた、古屋範子衆議院議員より能登半島地震に触れて「被災された方々へのきめ細かな支援に取り組んでいる。」更に、インフラ点検について「いっどこで起こるかわからない災害に対し、国民の命と暮らしを守るための防災・減災には、有資格者による余寿命診断が不可欠。」とご挨拶をいただいた。続いて、公明党太田昭宏常任顧問(元代表)よりご祝辞を頂戴した。その後、出席者は1月1日に発生した能登半島地震で被災された方々へのお見舞いと、犠牲となられた方々へのご冥福をお祈りし、黙祷が捧げられた。

開会にあたり、主催者を代表して長岡康之理事長は「地球規模の災害が発生するなか、非破壊検査業界に出来ることは、構造物を作り上げる際と作り上げた後の検査を確実にを行うこと、意義のある検査を行うことが重要である。」また、昨年7月に和歌山県のトンネル工事で施工不良が発覚した件に触れ「筐子トンネルでの天井板崩落事故でも同様の施工不良があった。施工不良の原因は今回も完成時検査をしていなかったことであり、当工業会としては、公明党非破壊検査技術振興議員懇話会を通じて、品質確保と資格を保有する第三者による検査を義務付けることを要望した。これからも非破壊検査を通じて社会に貢献して行く。」と、更に2024年の当工業会について「会員満足と会員ファーストの精神で業界発展に尽力する。」と挨拶した。

続いての来賓挨拶では、公務のため欠席となった斉藤鉄夫国土交通大臣の代理として、国土交通省大臣



賀詞交歓会のもよう

官房の橋本雅道技術調査課長より「非破壊検査業界と連携してDXの推進を図りたい、引き続きご協力をお願いする。」とご祝辞を代読いただいた。続いて、経済産業省製造産業局の安田篤産業機械課長は「日本経済は昨年大きな潮目を迎えた。コストカット型の経済から今年は賃金・投資・物価も拡大する成長型経済に様変わりして行く。経産省としてもGX・DXを含めた7兆円規模の補正予算の執行が今年から始まる。大胆な投資と力強い賃上げを進めていただきたい。」と、日本非破壊検査協会の塚田和彦副会長から「非破壊検査業界において、技術者の育成や若手への技術継承などの重要な使命を担っている工業会の果敢な動きと連携しながら、ともに歩んでいきたい。」とご祝辞をいただいた。

来賓挨拶を経て、日本溶接協会の栗飯原周二会長は「そもそも溶接は非破壊検査なくは成立しないものである、協力関係を今後も強化していきたい。」とご挨拶され、乾杯のご発声とともに会場を埋めた出席関係者により歓談の輪が広がり、新年の挨拶が交わされていた。

宴たけなわのなか、当工業会の錦戸陽介副理事長の三本締めで中締めとなった。



長岡康之
理事長



古屋範子
衆議院議員



太田昭宏
公明党常任顧問(元代表)



橋本雅道
技術調査課長



安田篤
産業機械課長



塚田和彦
JSNDI副会長



栗飯原周二
JWES会長

令和5年度 合同例会を開催

9月28日、令和5年度の合同例会が東日本支部の主催にて参加者48名のもと札幌市の「札幌東急REIホテル」で開催された。主催者を代表して渡邊正宏東日本支部長は冒頭の挨拶で「前回2018（平成30）年9月開催は地震の影響により中止となった。よって、今回は札幌リベンジと題してトップシーズンであるこの時期に開催することとした。」と、次に業界を取巻く環境に触れ、「人手不足が慢性化しており、各社ともに求人についても極めて厳しいと聞く、しばらくはこの状況が続くと思われ、改善の気配も伺えない。ついてはこのような会、行事を通じて会員間の情報交換の場になれば幸いである。」と述べた。長岡康之理事長からは、「国や地方公共団体への働きかけに重点を置き活動している、その一方では会員同士コミュニケーション不足が懸念されており、その対策として“工業会119”と題し、仕事の市場開拓が登録者に対しすでに展開されている。また、教育訓練のサポートも行っているが、会員への周知がされていないように思えるので、更なる皆さま方の協力をお願いしたい。」と挨拶を行った。その他、本部事業報告が各部会長より説明された。



長岡康之 理事長
渡邊正宏 東日本支部長
大江克己 講師



合同例会のもよう



懇親会のもよう

特別講演は、「化学分析に見るアイヌ民族資料」と題して、国立アイヌ民族博物館の大江克己氏より講演が行われた。当時の衣類などを蛍光X線装置やCTスキャンを用いて素材の化学分析を行うことで、アイヌ民族資料の周縁を探ることができる、可能性を秘めた調査法であると説明がされた。

その後、場所を移した懇親会では、YOSAKOIソーラン祭りが披露されるなど華やかな雰囲気の中での歓談となった。宴たけなわの中、清水重之西日本支部長のもと中締めとなった。

IICは、正確な検査・計測サービスで
あらゆる分野に貢献します。



航空宇宙
環境
発電
自動車
食品
ヘルスマニタリング

IHI Realize your dreams

株式会社 IHI 検査計測 営業統括部
〒140-0013 東京都品川区南大井6-25-3
TEL.03-6404-6033 FAX.03-6404-6044
www.iic-hq.co.jp

K 経験豊富な実績
E 笑顔で、業務に取り組みます
I いつでもどこでもあらゆるニーズにお応えします
放射線透過試験／超音波探傷試験／磁粉探傷試験／浸透探傷試験
過流探傷試験／漏れ探傷試験／レーダー探査／気密・耐圧試験

KEI 京浜検査工業株式会社

原子力規制委員会使用許可・CIW認定業者
本社：横浜市金沢区福浦2-6-10
TEL：045-701-2072 FAX：045-784-4100
山形営業所：山形県南陽市若狭郷屋253-2
TEL：0238-43-8100 FAX：0238-43-8108

豊かな経験・確かな技術

非破壊検査全般 ◆ 建築物設備配管劣化診断 ◆ コンクリート躯体調査・埋設物調査

JASCO 株式会社 ジャスコ
JAPAN SKIAGRAPH CO., LTD.

本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜1-23-3
TEL 045 (473) 5140 FAX 045 (473) 5141
札幌営業所 〒003-0833 札幌市白石区北郷3条11-4-20
TEL 011-875-4166 FAX 011-875-0666
E-mail: eigyou@kk-jasco.co.jp http://www.kk-jasco.co.jp/

アンカー工事
スタッドリッパ
耐震補強
引張試験
鉄筋探査
レントゲン
ダイヤモンド販売
コアビット販売
ハンドカッター販売
カップサンダー販売
道路用ブレード販売

社団法人 日本建設あと施工アンカー協会加盟
中央総業株式会社
神奈川県相模原市南区相模大野3-20-1 中央総業ビル4F
☎ 0120-07-1222 FAX 0120-07-5585

東日本支部 年末例会

東日本支部(渡邊正宏支部長)は12月8日、川崎商工会議所で令和5年度年末例会を開催し30人超が参加した。開催に先立って渡邊支部長は、令和5年度の事業計画に則して会務・委員会・支部・本部報告を行った。特に、9月に行った札幌での合同例会に触れ、当初の計画より多数の参加者に恵まれ、結果的には50名に及ぶ盛大な会となったことの謝辞を述べた。その後は、特別講演として永島公認会計士事務所の永島徳大氏を招き、本部事業の一環である広報部会の共通テーマである「電子帳票保存法について」の講演が行われた。電子帳簿保存法は、今年(令和5年)の12月31日をもって宥恕措置が終わり年明けより猶予措置に入るが、今のところ措置の期間は定められていない。しかしながら保存要件(場所、期間、措置など)は定められていることから、いずれ猶予期間が定められることを見越し、各社とも顧問税理士等と相談のうえ着手することが望ましいと説明された。最後に質疑応答に移り活発なやり取りがあり関心の高さが伺えた。講演終了後の交流会はコロナ以前のように立食形式の懇親会となった。古屋範子衆議院議員の乾杯の音頭とともに歓談の輪が広がり、宴たけなわのところ長岡康之理事長のご発声により中締めとなった。



渡邊正宏
支部長



古屋範子
衆議院議員



永島徳大
講師



懇親会のもよう

関西支部 令和6年新春賀詞交歓会を開催

関西支部(富田裕樹支部長)は1月12日、大阪市北区のホテルグランヴィア大阪にて、関西地区非破壊検査業界の令和6年新春賀詞交歓会を開催し、関西地区の非破壊検査に係わる行政、団体及び会員等98名が参集した。



賀詞交歓会のもよう



富田裕樹支部長

富田支部長は、令和6年能登半島地震により被災された方々への哀悼の言葉を述べられた後「昨年は、6月の支部大会、7月の非破壊評価総合展2023では加古川鶴林寺様の協力による壁画の復元資料の展示、8月は技術討論会を関西で開催、9月の支部経営交流会と充実した活動が出来た。また、地震の発生に伴うインフラ設備の災害対策、中東情勢による電力不足の顕在化と原発再稼働に伴う非破壊検査の必要性等が想定される一方で、非破壊検査業界の人材不足も深刻となり賃上げ等の対応が求められるなか、会員各社の意見を聞き、知恵を出し合い良い環境作りを進める。」と挨拶した。

続いての来賓挨拶は、山本かなえ参議院議員から地震災害への取り組みと二次被害防止への支援活動について、伊藤孝江衆議院議員からインフラ調査士技術の必要性についてご挨拶をいただいた。近畿地方整備局の見坂茂哉局長は設備等の老朽化対策の必要性について、大阪労働局労働基準部の東裕之健康課長はインフラ設備を非破壊検査技術が陰で支えていると述べ、近畿経済産業局産業部の前原紀子製造産業化課長補佐は関西万博の気運の高まりと共に積極的な設備投資への支援について、お話を頂戴した。

日本非破壊検査協会関西支部の横野泰和支部長による乾杯のご発声で祝宴へと移った。会場では、鰐淵洋子衆議院議員、和歌山大学システム工学部の村田頼信教授よりご挨拶を頂戴し、歓談の輪が広がり祝宴が盛り上がる中、定刻となって錦戸陽介副理事長の中締め挨拶により散会となった。

お客様と社員に信頼される
企業でありつづける



溶接検査株式会社

本社：〒985-0874
宮城県多賀城市八幡2-16-10
TEL：022-365-6040
FAX：022-366-3556
URL：http://yosetsukensa.com
出張所：青森・山形・秋田

CIW認定 A種 想像から創造へ 今感動の技術
労働者派遣事業許可
ISO9001 認証 JMAQA-1749



株式会社ダンテック

- 非破壊試験検査全般
- 各種プラント保守点検
- 品質管理
- 建築・土木構造物調査診断
- 各種設備・配管劣化調査
- 破壊試験・化学分析等材料試験

本社 〒530-0043 大阪市北区天満4丁目14番13号
TEL.06(6354)3641 FAX.06(6354)2707

放射性同位元素等安全管理委員会(放安委) 令和5年度大会・見学会を実施

11月10日放安委は、島根県の松江ニューアバンホテル会議室にて委員14名、オブザーバ8名、事務局1名、オンライン参加4名の合計27名出席のもと、令和5年度大会を開催した。会議では、令和4年度会計・事業報告、令和5年度活動計画が報告され、全会一致で承認された。次に、理化学研究所の堀江仁一郎氏による「小型中性子源システムRANSプロジェクト」、理化学研究所の杉山和幸氏(元原子力規制庁 技官)による「非破壊検査装置に関する新法対応」、前委員長のシーエックスアール堀田雅雄氏による「委員活動20年間回想」の特別講演が行われた。

その後、島根原子力発電所の見学会を行い、副所長から発電所の設備概要と現状、安全性向上の取組みについて、建設中の3号機(改良型沸騰水型)では東日本大震災後の新規制基準に対応した設備の説明を聞き、中央制御室、浸水防止対策の水密扉、水素処理装置、原子炉格納容器などを見聞した。最後に、緊急時対応の指揮所となる緊急時対策所対策本部室を見学した。すべてを通じて、事故を起こさないための対策と起きた場合の対処など、多重防護が徹底されていた。



大会の様様



緊急時対策所対策本部室の見学

西日本支部 令和5年度 技術交流会を開催

11月10日に九州機械工業振興会にてJSNDI九州支部の「技術サロン」との共催で「令和5年度JANDT西日本支部技術交流会」を対面にて開催した。「技術交流会」は以下3件の講演があった。

- ・新日本非破壊検査の田村祐基氏による「条鋼圧延工場における画像処理検査の利用」
- ・ウイズソルの瀬戸山達也氏による「アレイ渦電流によるクラッド鋼合せ材厚さ測定」
- ・九検の西敏臣氏による「打音による機械学習を用いた実橋RC床板部材の樹脂重点判定手法に関する研究」

当日は19団体41名の参加があり質疑応答も活発に行われた。最後に加藤光昭九州工業大学名誉教授の挨拶でしめくられ、盛況のうちに終えた。また、交流会終了後には懇親会が行われ16名が参加し交流を深めた。

機材支部計測分科会 「防災館」見学会を開催

機材支部計測分科会(堀充孝委員長)は、会員各社の交流及び親睦を図るために毎年見学会を開催して来たが、2019年の国立天文台の見学会を最後にCOVID-19感染症への対策から実施出来ずにいた。今年度は、見学会を実現したいとの分科会の強い意志から11月24日本所防災館の見学・体験会を開催した。今年、1923(大正12)年に発生した関東大震災から100年の節目に当たる。震災は近代日本の首都圏に未曾有の被害をもたらした。近年では大規模な自然災害が多発し、常日頃から防災に対する意識は高まっている。今回、本所防災館(墨田区横川)を訪問し、関東大震災・熊本直下形規模の地震、火災時の煙、雨具対策をしておの防風雨、水圧を想定した乗用車、非常扉の開放体験をし、災害の怖さを改めて知る機会となった。参加者は報道関係を含め11名と少人数であったが、参加者の積極的な姿勢・取組みにより非常に貴重かつ有意義な見学・体験会となった。今後も交流、親睦が図れるよう計測分科会では見学会を定期的に行うよう取り組んで行く、皆様のご協力・ご意見を宜しくお願いしたい。



本所防災館にて

**非破壊検査・地盤調査の複合技術で
社会基盤(インフラ)の安心と安全を守ります**

東洋検査工業株式会社

☆ 非破壊検査全般、タンク開放検査、プラント保安検査
☆ インフラ調査(地中探査、トンネル点検、橋梁点検、構造物点検)
【ISO 9001認証・CIW認定・KHK認定・地質調査業者登録】

本社 〒640-8306 和歌山市出島 31-5
TEL 073-471-1311 FAX 073-474-6211

詳しくは

支店/営業所 大阪/和歌山/鹿島

試験機校正受託サービス

5 営業日 最短納期*

※対応機種は順次拡大中!
DPG100・APCシリーズ・TRシリーズは業界最短納期で校正いたします!
※2023年当社調べ

QUICK 校正ラボ

測定機器を短納期で校正

自動見積りフォームをご活用ください

校正ラボ

株式会社トラスト

大阪支店 〒567-0029 大阪府茨木市五日市緑町5番32号
TEL: 072-621-4172 WEB 919-cal.jp

鉄筋腐食測定技術の紹介

1. はじめに

高度成長期以降に整備された道路橋、トンネル及び港湾施設などが建設から40年以上経過し、膨大なインフラ構造物に対して予防保全型維持管理への転換が必要である。コンクリート構造物の健全度（腐食状態）の把握方法として交流インピーダンス法（3電極法や4電極法）がある。3電極法では定量的な評価を得られるが、構造物の一部を「はつる」必要がある課題がある。一方、4電極法では非破壊での測定が可能であるが、測定結果の解釈が難しい課題がある。これに対して、東京理科大学、海上・港湾・航空技術研究所、飛鳥建設株式会社は、ひび割れ発生前に完全非破壊で鉄筋コンクリート構造物の鉄筋腐食を把握する鉄筋腐食測定機を開発したので、その技術を紹介する。

2. 鉄筋腐食測定の原理

青黒プローブから出力された全電流が鉄筋を介して赤プローブに入力される。プローブ間隔を適切にし、コンクリート表面および内部を伝わる電流を“0”にすることで、緑プローブが電流の影響を受けずに鉄筋の電位をモニタすることができる。（図1参照）専用のソフトウェアによってインピーダンスベクトルを自動で取得・解析し、かぶり、鉄筋径、鉄筋間隔を入力することで分極抵抗および腐食速度を推定する。

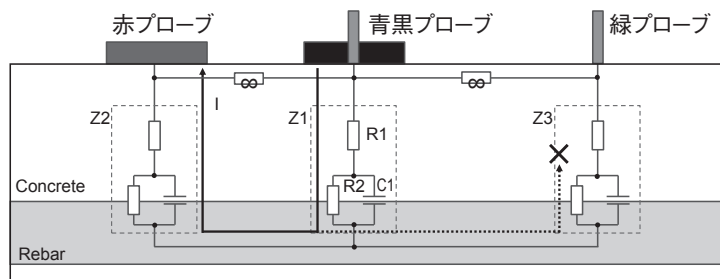


図1 測定原理



図2 Dr.CORR装置外観

3. 測定の方法

上記の測定原理に基づいて測定のできる装置を図2に、測定の方法を図3に示す。本測定機は、独自の電圧制御システムによって、コンクリート構造物に適切な印加電圧を与えることができ、精度の高い分極抵抗が得られる。また、電源ノイズを減少させるためPCやモバイルバッテリーからの電源供給としている。測定プローブは、粘着伝導性ゲルを塗布することで構造物に接着し、測定中はハンズフリー（図4）とすることができる。

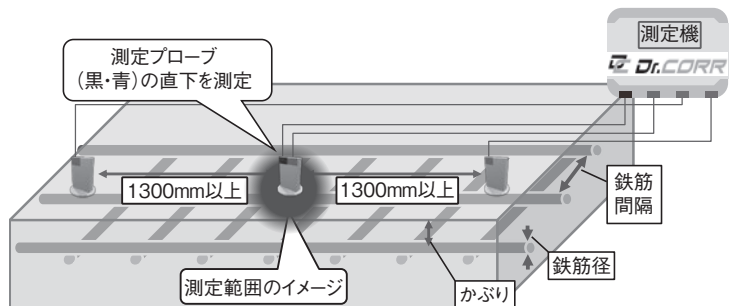


図3 測定の方法

測定結果の解析は、等価回路によるフィッティングによって分極抵抗の算出ができ、被測定面積を特定することで単位面積当たりの腐食速度も算出（図5）できる。また、鉄筋と直接接続できるような場合には、3電極法として使用することも可能である。

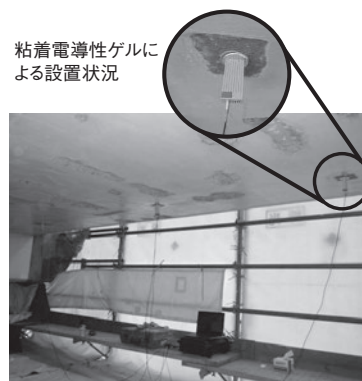


図4 鉄道高架橋補修工事での測定状況

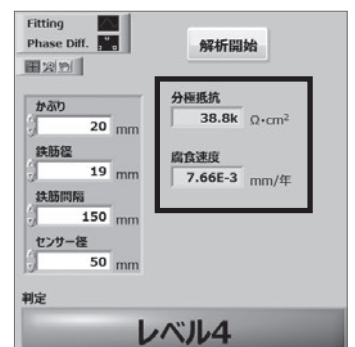


図5 分極抵抗及び腐食速度

4. おわりに

「Dr.CORR」は、腐食ひび割れ発生前に完全非破壊で鉄筋の腐食を把握できることから、今後のコンクリート構造物の補修・補強工法の選定における重要な指標になるのではないかと期待される。

問合せ先：エフティーエス（株） NDT事業部 大瀧 昌輝
 TEL：03-6206-2220 FAX：03-6206-2221 E-Mail：otaki@fts-ltd.jp HP：https://www.fts-web.jp

テラヘルツ波による非破壊検査技術の紹介

1. はじめに

テラヘルツ波は図1に示すように赤外線波長域より長く電波より短い波長帯で10THz (30 μ m) ~ 100GHz (10mm) 長さの電磁波である。テラヘルツ波の周波数は1THz (300 μ m) 前後の波長帯が多く使用されている。テラヘルツ波検査装置は、送信装置から照射されるテラヘルツ波を受信装置で受信し、超音波のTOF測定のような横軸に時間軸、縦軸に振幅を表示する。テラヘルツ波による検査は、被検査体の内部の剥離、透過性の違いを対象とし、透過法だけでなく反射法の適用が可能である。(図2)

テラヘルツ波の透過特性は被検査体の材料に依存し、プラスチック、紙、木材、繊維、ガラスやコンクリート(水分を含まない)を透過するが、金属(メタル)、水、カーボンを透過しない。

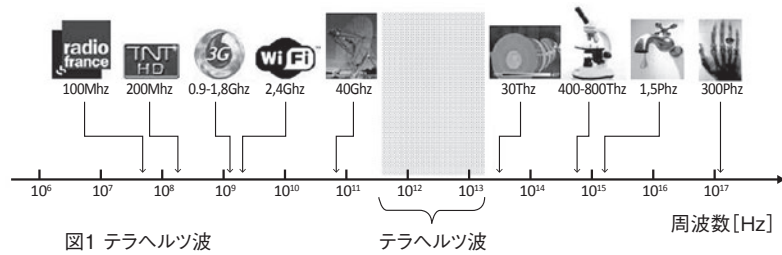


図1 テラヘルツ波



図2 反射法と透過法

2. テラヘルツ検査装置

テラヘルツ検査装置としては図3に示すように、左側のシングルパスとX-Yステージで反射法/透過法ができる検査装置、中央のラインスキャン検査装置、右側の反射法で主に膜厚測定に適用されるハンディな検査装置がある。

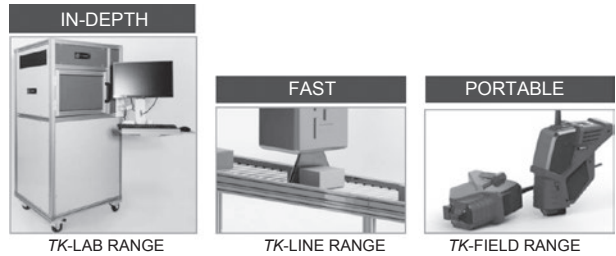


図3 各種テラヘルツ検査装置

3. テラヘルツ波の検査事例

図4に透過法の検査事例として2枚のプラスチック板の間に接着材、水を挟み込んだ検査対象物の二次元スキャン画像を示す。中央の黒い円形状の箇所は水が介在している箇所のでテラヘルツ波は透過しない。

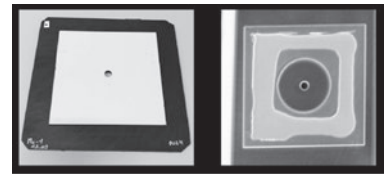


写真 テラヘルツ波の透過画像

図4 2枚のプラスチック板の透過法

図5に射出成型された繊維強化プラスチック板の中のファイバーの流れ・分布の状態を示す。テラヘルツ波はプラスチックを透過するがファイバー(材料による)は減衰や透過しない。

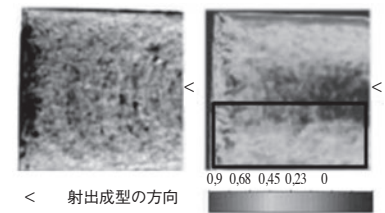


図5 繊維強化プラスチック内の繊維の充填率

図6にラインスキャン検査装置をロボットに搭載して自動車のリアガラスの接着面の検査を示す。テラヘルツ波はガラスを透過するが水や金属を透過しないので、ガラス越しに接着剤の中に含まれる水や金属を検出することができる。テラヘルツ波によるガラスと接着面からの反射波、接着剤と自動車ボディからの反射波を検出することで、接着材塗膜厚さの評価もできる。ラインスキャンの移動速度としては60mm幅で、100mm/sec ~ 240mm/secである。テラヘルツ波は水などの接触媒質を使用しない非接触で片側からの反射法が可能であり、大型の移動装置と組み合わせることができれば、例えばGFRP製の風力発電の風車のような大型構造物の検査にも適用できる可能性がある。

4. おわりに

テラヘルツ波は古い技術であるが産業用の検査装置としての適応事例は少ない。小型化されたテラヘルツ波の発生装置や受信装置とラインスキャン検査装置の組合せにより従来では難しかったテラヘルツ波による非破壊検査への適応を示している。テラヘルツ波は透過材料に依存するが、高速スキャンが可能になったことでより多くのアプリケーションへの適用が期待される。



図6 自動車バックドアガラスの検査

問合せ先: (株) ケン・オートメーション 代表取締役 矢尾板達也

TEL:045-290-0432 FAX: 045-321-6590 E-Mail:info@kenautomation.com HP:https://www.kenautomation.com

公明党非破壊検査技術振興議員懇話会へトンネル覆工厚さの品質確保を要望

当工業会（長岡康之理事長）は、11月1日に参議院議員会館で、公明党非破壊検査技術振興議員懇話会の席上、トンネル覆工厚さの品質確保について要望書を提出した。2022年長野県、2023年和歌山県で相次いでトンネル覆工厚さ不足が明らかになっており、トンネル天端部の覆工厚さ不足は天端部崩落にも繋がりがかねない。しかしながら、従来から実施されている完成検査時の寸法測定や目視では覆工厚さ不足は検査することができない。したがって、「トンネル覆工厚さの品質確保に対して、コンクリート構造物の配筋探査技術者等の資格を有した第三者による中間検査および完成検査を義務付けること」を要望した。これに対して、秋野公造議員懇話会会長（参議院議員）からは、「検査は、医療と同様に、知識・技量を有した検査員による客観性を持ったデータが重要である。トンネル覆工厚さの検査は重要であり、前向きに取り組んでいく。」との話を得た。



要望書提出の模様

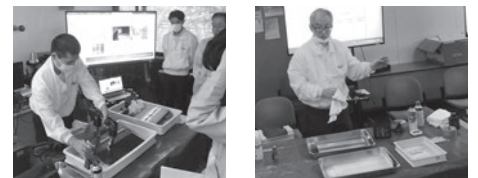
土木学会「第44回鋼構造基礎講座」に講師を派遣

技術部会（安田裕之部会長）は、土木学会（鋼構造委員会 鋼構造継続教育推進小委員会）が主催する第44回鋼構造基礎講座「鋼構造物の点検・診断に適用される非破壊検査技術～基礎と応用・新技術～」に講師を派遣し、非破壊検査技術の基礎に関する講義並びに鋼構造の詳細調査でよく利用される磁粉探傷検査（MT）、超音波探傷検査（UT）、渦電流探傷検査（ET）、浸透探傷検査（PT）の4種目のデモンストレーション実演講習を実施した。

土木学会の小藤輝正幹事長の開会挨拶後に、当工業会の前川真一氏より「非破壊検査技術の基礎」、阪神高速道路の平野正大氏及び本州四国連絡高速道路の横井芳輝氏より「鋼橋点検における非破壊検査技術の適用・開発事例」と続き、東京都市大学の白旗弘実教授による「鋼構造物の非破壊検査の課題と最新技術」の講義で締めくくられた。各講義はオンライン配信、実演講習は対面で行われた。実演講習の受講者（32名）は、当工業会が準備した4種目のテーブルに分かれ20分程度の実演を順番に受講した。各実演は弓野拓也氏（MT）・前川真一氏（UT）・一ノ瀬伯子ルイザ氏と林茂央氏（ET）・馬上宏之氏（PT）が担当した。普段から非破壊検査に触れる機会の少ない受講者からの質問や適用事例に関する話題などで大いに盛り上がり、土木学会関係者から今回実演講習を取り入れて本当に良かったとの感想をいただいた。



基礎講座の模様



MT講習の模様

PT講習の模様

安全部会 ～令和5年度の安全衛生標語選出作品～

（敬称略）

安全標語	優秀賞	三菱重工パワー検査 井出 勝一	「安全は基本動作の積み重ね 正しい手順でゼロ災職場！」
	優良賞	三菱重工パワー検査 山下 拓馬	「立ち止まろう いつもと違うのは 異常の合図 潜む危険を 見落とすな」
衛生標語	優秀賞	トーレック 松嶋 美乃	「仲間を気遣う心のゆとり 笑顔こぼれる 健康職場」
	優良賞	東洋検査工業 原崎 直人	「心と体の健康は 挨拶、声掛け、思いやり みんなで紡ぐ 健康職場」



“診る”を究めて

人と技術を「安全」という強固な絆で結び、「安心」を提供します。

新日本非破壊検査株式会社

営業本部 〒803-8517 北九州市小倉北区井堀4丁目10番13号
TEL:093-581-1234 FAX:093-581-4567

東京営業部 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町16-19
aLATO日本橋小伝馬町 3階



TEL:03-6661-1307 FAX:03-6661-1308
<https://www.shk-k.co.jp>

高品質な検査を実現する基本性能

有効長 2～30mの多様なラインアップ

エビデントの工業用ビデオ スコープが実現する **令和の検査改革**

株式会社エビデント ☎0120-58-0414 (フリーダイヤル) www.EvidentScientific.com

第19回インフラ調査士一次試験を実施

11月15日学科試験（一次試験・再試験）が関東・関西で同時に行われた。

【学科試験】新規受講・受験者数：56名、
再試験者数：20名

資格	橋梁（鋼橋）	橋梁（コンクリート）	トンネル	付帯施設
受験者数	59名	60名	61名	66名
合格者数	40名	32名	40名	29名

【二次試験】2月9日 試験会場：川崎市産業振興会館（神奈川県川崎市幸区堀川町66-20）

第31回 配筋探査技術者資格試験を実施

11月29日「コンクリート構造物の配筋探査技術者資格認証学科（一次）試験」が実施された。受験者情報は表のとおり。

	関東	関西	九州	受験者 合計	合格者	合格率
新規受験	46名	41名	8名	95名	56名	59%

実技（二次）試験日程予定			
受験地	関東（川崎市）	関西（大阪市）	九州（北九州市）
日付	2月26日～27日	2月14日～15日	1月31日

講習会開催情報	インフラ調査士講習会 [教育部会]		10月13日	オンライン（Zoom）講習会	受講者61名
		配筋探査オンライン講習 [教育部会]		10月10日～27日	eラーニング

講師派遣情報	日本鑄造工学会「鑄造品の超音波試験（UT）技術者養成講習会」		東京会場2日間：11月21日～22日	
		土木学会「第44回鋼構造基礎講座」		東京会場1日間：10月17日

- 会員動向** 令和6年1月31日現在 197社（東日本支部78社、関西支部43社、西日本支部43社、機材支部33社）
- 入会**
- 機材支部 アスワン電子株式会社 営業・技術統括マネージャー 森永光樹
〒556-0005 大阪府大阪市浪速区日本橋5-14-10 松竹ビル3F
電話：06-6635-1881 FAX：06-6635-1880 E-mail：morinaga@aswan-ect.jp（令和5年11月1日）
 - 賛助会員 協栄産業株式会社 ビジネスイノベーション室長 横尾吉輝
〒140-0002 東京都品川区東品川4-12-6 品川シーサイドキャナルタワー
電話：03-4241-8848 FAX：03-5479-3561 E-mail：yokoo.yoshiteru@kyoei.co.jp（令和5年11月1日）
- 退会**
- 機材支部 株式会社三井E&S（令和5年10月31日付）

小型・軽量で大画面

ポータブル超音波探傷器
USFD-20

★UT実技試験 持込認定探傷器★

- ・一般社団法人 日本非破壊検査協会
- ・一般社団法人 鉄骨技術者教育センター

安心の2年間製品保証！
（最長5年までの延長契約あり）

寸法：198×128×52mm
重量：0.84kg（バッテリー含む）

株式会社 KJTD

〒578-0912 大阪府東大阪市角田1丁目9番29号
大阪事業所 TEL (072)965-6231(代) FAX (072)962-6236
Email: usfdinfo@kjtd.co.jp URL: www.kjtd.co.jp

サンコウの測定器・検査機器
非接触膜厚計コートマスター FLEX

◆ウェット／乾燥状態のコーティング層を非接触で測定可能！



SANKO 株式会社サンコウ電子研究所
東京：03-3254-5031 大阪：06-6881-1230 仙台：022-292-7030
名古屋：052-915-2650 福岡：092-282-6801
URL https://www.sanko-denshi.co.jp

Pony

LEDブラックライト
Hydrangea PB-01A

JIS Z 2323準拠

- ◎小型・軽量(520g)のボディ(灯具)
- ◎握り易さを考慮した取手部の形状
- ◎LEDはスイッチON後、すぐに点灯

販売元
ポニー工業株式会社
(本社)〒541-0057 大阪市中央区北久宝町2-3-6
TEL:06-6262-6510 FAX:06-6261-2009
(東京営業所)
TEL:03-5472-1091 FAX:03-5472-3026

製造元
株式会社コンテック
〒544-0011
大阪市生野区田島5-3-30
TEL:06-6756-9810
FAX:06-6756-9820

非破壊検査機器の**販売・修理・校正・レンタル**



工業X線発生装置 超音波探傷器 USM100 超音波厚さ計 DM5E

支える、の一番近くに。

RIKOH-S 理工サービス株式会社

〒733-0035 広島市西区南観音6丁目3番10号
TEL：(082)292-2552(代) FAX：(082)295-0566
E-mail:rikoh@rikoh-s.com URL: https://www.rikoh-s.com/